

## 1 話を聞くとき

1・2年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発表する人に体を向けて、話に耳をかたむけましょう。</li> <li>○ 発表が終わるまで静かに聞きましょう。</li> </ul>
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達が発表したことと、自分の考えとを比べながら聞きましょう。</li> <li>○ 発表の内容を確認しながら聞きましょう。そして、わかるときには、うなずくようにしましょう。</li> </ul>
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 必要なことや大切だと思うことは、メモしましょう。</li> <li>○ 発表内容の根拠を探しながら聞きましょう。</li> </ul>

児童の相互の考えが繋がっていくような発表の場を作ることが望ましい。そのためにも、発達段階に応じた話形や発言内容について指導する。

## 2 発表するとき

### (1) 手を挙げる時

- ① 先生の合図で、「はい」と一度だけはっきりと言います。
- ② 天井に向けて指先までしっかり伸ばして、手を挙げましょう。

### (2) 発表するとき

- ① あてられたら、「はい」とはっきりと返事をして、静かにいすの横に立ちます。
- ② 一番遠い人に体を向けて、みんなに聞こえるように発言しましょう。
- ③ 自分の意思をはっきりと表しましょう。  
「わかりません。」「もう少し考えさせてください。」

## 3 基本的な学習用具

### (1) 筆箱の中

鉛筆 (5本ほど)  
消しゴム (1こ)  
赤鉛筆 (2本ほど) または赤ペン  
青鉛筆 (2本ほど) または青ペン  
定規 (1本)

左は筆箱の中身の目安である。強制することにならないよう、十分に留意する。

- 鉛筆類は家で削ってきましょう。また、人差し指よりも短いものは使わないようにしましょう。
- 鉛筆の濃さについては、先生と相談しましょう。
- シャープペンシルは使ってはいけません。
- 筆箱には余計なものを入れないようにしましょう。
- しっかりと名前を書いて、持ち物を大切にしましょう。

- 鉛筆類は家庭で削ってくる。または、準備の時間に削るように指導する。
- 鉛筆の濃さについて指導する。(発達段階に応じて)
- 今後、児童が購入する場合に備えて、同じ機能を持つ道具であっても学習に適する物と適さない物がある事を教える。

#### (例) 鉛筆

- ・ 人差し指よりも長いもの。これより短いと正しい持ち方ができない。  
( シャープペンは、芯が折れやすく、また芯を出す際に音がでて集中できず、手遊びの原因にもなりうる。鉛筆に比べて書いた線も細く、とめ・はね・はらいといった文字を書く基本がうまく表現できない。小学生の発達段階には適さない。)

#### 消しゴム

- ・ 「ねり消し」や「キャラクター等の形をした消しゴム」は、きれいに消すために作られた物ではない。そのため、文字をきれいに消すことは難しい。また、手遊びの原因になりうる。

#### 定規

- ・ 下に書いてある文字が見やすい、透明なもの。
- ・ 0cmのめもりが定規の端から始まらず、線がはっきり分かりやすいもの。
- ・ めもりが大きくて見やすいもの。

### (2) 小物類

のり 1つ  
はさみ 1つ  
色鉛筆 1セット  
記名用油性ペン 1本

- 小物入れを準備し、左の物を入れて、机の横にかけておきましょう。
- しっかりと名前を書いて、持ち物を大切にしましょう。

○ その他の小物類については、随時、保管場所等を指導する。

## 4 学習時の準備



- 使わないものは机の中にしきまいます。(筆箱や他の鉛筆もしまおう。)
- 左に教科書、右にノート、上に筆記用具をおきましょう。左ききの方は、左右反対になります。
- ノートには下じきをしましきましよう。